

緊急事態宣言下における航空機の運用について（口頭要請）

昨年7月1日に当連絡会から、「新型コロナウイルス感染症が終息していないことを念頭に、訓練や飛行運用における時間帯を考慮し、頻繁な低空飛行、旋回飛行及びC V-22による長時間のホバリングを控える等、周辺住民の心情に十分配慮すること。」を要請しました。しかし、感染症は終息の見通しが立っておらず、国民が一丸となって長期的な対応に取り組んでいます。

このような中、令和3年1月7日に、首都圏（1都3県）を対象とした、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発出されました。

基地周辺住民においては、不要不急の外出・移動の自粛などとあわせて、引き続き、学校・職場・自宅等での窓を開けての換気対策を実施しているため、航空機騒音等の影響が大きくなっており、以前にも増して住民からの苦情が寄せられております。

貴職におかれましては、このような状況をご理解いただきたく、改めて、次のとおり要請します。

- 訓練や飛行運用の回数及び時間帯を考慮するとともに、基地周辺市街地上空での低空飛行及び旋回飛行を行わないこと。
- C V-22による長時間のホバリングを控える等、周辺住民の生活に十分配慮すること。

令和3年1月15日

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官
アンドリュー J. キャンベル 大佐 殿

横田基地周辺市町基地対策連絡会構成市町長

立川市長	清水庄平
昭島市長	臼井伸介
福生市長	加藤育男
武蔵村山市長	藤野勝
羽村市長	並木心
瑞穂町長	杉浦裕之

幹事 立川市長 清水庄平

緊急事態宣言下における航空機の運用について（口頭要請）

昨年7月1日に当連絡会から、「新型コロナウイルス感染症が終息していないことを念頭に、訓練や飛行運用における時間帯を考慮し、頻繁な低空飛行、旋回飛行及びC V-22による長時間のホバリングを控える等、周辺住民の心情に十分配慮すること。」を米軍に申し入れるよう要請しました。しかし、感染症は終息の見通しが立っておらず、国民が一丸となって長期的な対応に取り組んでいます。

このような中、令和3年1月7日に、首都圏（1都3県）を対象とした、新型コロナウイルス感染症に係る緊急事態宣言が発出されました。

基地周辺住民においては、不要不急の外出・移動の自粛などとあわせて、引き続き、学校・職場・自宅等での窓を開けての換気対策を実施しているため、航空機騒音等の影響が大きくなっており、以前にも増して住民からの苦情が寄せられています。

貴職におかれましては、このような状況をご理解いただきたく、改めて、次のとおり米軍に申し入れを行うよう要請します。

- 訓練や飛行運用の回数及び時間帯を考慮するとともに、基地周辺市街地上空での低空飛行及び旋回飛行を行わないこと。
- C V-22による長時間のホバリングを控える等、周辺住民の生活に十分配慮すること。

令和3年1月15日

{ 北関東防衛局長 松田 尚久 殿
横田防衛事務所長 和田 善徳 殿

横田基地周辺市町基地対策連絡会構成市町長

立川市長 清水 庄平
昭島市長 臼井 伸介
福生市長 加藤 育男
武蔵村山市長 藤野 勝
羽村市長 並木 心
瑞穂町長 杉浦 裕之

幹事 立川市長 清水 庄平